

Contents

-
- A large indoor gathering, likely a community event or festival, featuring many people seated at long tables. The room is decorated with colorful paper lanterns hanging from the ceiling. A red banner is visible in the background.

編集後記



第2回障害者福祉セミナー開催



令和元年9月21日(土)、茨城県総合福祉会館において、社会福祉法人茨城県社会福祉事業団と当法人の共催による『第2回 障害者福祉セミナー』が開催され、約110名の方々にご参加頂きました。

まず、「高齢知的障害者に対する支援のあり方について学ぶ」というテーマで、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 古川慎治事業企画部長にご講演を頂きました。高齢知的障害者に対する実際の支援から構築されたノウハウや予測可能な事態に対して準備を進めることの大切さを学びました。また、制度や仕組みの理解がサービスの多様化への対応に不可欠であり、利用者支援の選択肢の広がりにつながると感じました。

続いて、二つの実践報告を頂きました。一例目は社会福祉法人尚恵学園尚恵成人寮 小林佑馬サービス管理責任者より、ADLの低下が著しく高齢者施設への入所へ至った事例について報告がありました。二例目は当法人青嵐荘つくし園相談事業所の杉野副主任より、高齢知的障害者への相談支援について古河市の現状と事例、地域相談支援センターへのグループインタビューから見てきた課題についての報告がありました。

障害分野のスキルアップだけでなく、高齢分野についても理解を深め、高齢化・重度化に対応できる職員が増えることが必要であると感じました。広い視野を持つ職員を目指して職務に邁進していきたいと思えます。(佐々木)

職員紹介～新たな資格取得者～

「様々な領域で期待される公認心理師」

青嵐荘つくし園相談支援事業所 長谷川所長

私は、第2回公認心理師試験を受験し、合格する事が出来ました。公認心理師は、2017年公認心理師法が施行され、心理職においては国内で初めてとなる国家資格となりました。今年で2回目の試験でしたが、私は、5年間の実務経験と現任者講習会を受講し、受験資格を得ました。このルートでの受験は、2022年9月までに5年間の実務経験を積み、現任者講習会を修了することが条件となっています。公認心理師の活躍の場としては、「医療・教育・産業・福祉・司法」の主要5領域があります。医療分野では、がん患者へのこころのケアや摂食障害の治療等、教育分野では、スクールカウンセラーや学生相談室等、産業分野では、労働者へのカウンセリングやストレスチェック等、福祉分野では、児童相談所や障害者支援施設等、司法分野では、犯罪加害者の再犯防止や犯罪被害者のケア等、様々な領域で重要な役割を担う資格になると思われます。最後に、私は、この資格を活かして、相談支援専門員の対象者である障害児者に限らず職員の悩みや不安にも耳を傾けていく事で、心に問題を抱えている方への心理的アプローチを実践し、少しでも心豊かに過ごせる人を増やしていけるよう努力していきたいと思えます。

「防災士」

グループホーム穂の香 中島介護員

昨今、台風やゲリラ豪雨、巨大地震といった自然災害が頻発しており、その際に何か役に立つことは出来ないかと考えていた所、「防災士」という資格を知り、2019年8月に資格取得のための研修及び試験に参加しました。まず、防災士とは、“自助”“共助”“協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な知識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人となります。研修の中で印象に残っている事は、1995年に発生した「阪神・淡路大震災」は、3万5千人が生き埋めになり、そのうちの約8割にあたる2万7千人は地域住民により助けられました。この様に、災害時に最も重要なのは迅速な救助であり、日々の訓練は当然重要ではありますが、「地域」との関わりが最も重要ではないと感じました。今回、防災士の資格取得により修得した知識など活かし、施設内外での防災意識向上に努めたいと思えます。また、今後、発生するであろう巨大地震や頻発する気象災害に備えて何が出来るのかを考え、必ず来る「その日」に最善を尽くせるよう防災・減災の知識を高め、防災活動に踏み出したいと思えます。



勤続十年以上の職員を対象に「長期在職者対象研修会」を開催しました。

第一回となる、栃木県足利市コースのテーマは「歴史に学ぶ」です。二十名の職員が参加しました。

七月四日 出発時に見舞われた強い雨も、足利市に入る頃にはすっかり上がり、最初の研修地 足利学校に到着しました。日本最古の学校とされ、僧侶を中心に孔子の教えに基づき「儒学」を学んだ場所ですが、ちかり孔子に魅了され、多くの職員が校内の売店で、論語抄を購入していました。

次の研修地は社会福祉法人こころみる会が運営するココファームワイナリーです。今では障害者の就労支援として定着した、六次産業化や、農福連携ですが、六十年以上前にブドウ栽培を始め、四十年前にワイン醸造が開始されたことに先見性を感じました。

足利市を舞台にした「歴史に学ぶ」研修で、現代の教育や障害者支援のあり方を先取りした歴史に触れ、参加者は将来を見据え物事に取り組むことの大切さを感じることができました。(酒寄)



参加者の感想

連綿と続くその歴史に圧倒されました。室町時代から江戸時代末期まで中世の最高学府として日本の高等教育を支え、火災や学術書の流出といった大きな危機を乗り越えた現在も、学校様の愛称で親しまれている同所、数多くの収蔵品から、その役割や意義の一端を理解することができました。また、手入れの行き届いた建物や庭園も見事であり、特に「方丈」と書院の間に設けられた坪庭の美しさが印象的でした。(高橋)

ココファームではワインのテイスティング、私はコースでした。豪華なコース料理もいただき、お土産の買い物をしたりと、研修をさせていただきながらも、日帰り旅行の様な楽しい時間を過ごさせていただき、リフレッシュさせていただきました。

また、長期在職者対象研修ということで、以前お世話になった事業所の方々と交流する機会にもなり、とても楽しく参加させていただきました。今回は、長期在職者対象研修会に参加する機会をいただき、ありがとうございます。(藤本)

九月六日に第二回目の長期在職者対象研修を開催致しました。今回のテーマは、未来、国内唯一の研究学園都市であるくば市を研修地へ選び、見学施設から学び感じることを目的に、産総研サイエンススタアつくばとサイバードインスタジオを見学致しました。

産総研では最新研究をガイド解説、試作品展示や解説動画からその新しい技術が社会に役立てられていることを学び、未来の社会を思い浮かべ、サイバードインスタジオでは、すでに実用化されているロボットスーツHALの動作原理体験をすることで、研究開発の成果と福祉の世界におけるロボットの存在と必要性、選択性をより身近なものとして感じてもらったことを目的とした研修でした。

研修を通しての学びはもとより所属施設、職種を超え、テーマを通して同じ時間、空間を共にした参加者のコミュニケーションも有意義なものであったと感じております。(西村)



参加者の感想

テーマ「未来」ということで、科学技術や未来の進歩を感じる研修でした。産総研で初めてパロに触れ、実際にセラピー効果を体験することができました。子どもの行動分析に基づいて製作された遊具が増え、子どもの不慮の事故を未然に防ぐことに繋がっていくと良いと感じました。

「ごきげんキッチン」での食事は野菜中心のメニューで満足感があり、おいしかったです。また、他施設の方と会話を楽しみながら楽しい雰囲気での食事となりました。緑に囲まれた自然な場所にあり癒されました。(吉田)

私が入職した約二十年前に主流だった介護技術が、時代の流れの中でより効果的な方法を取り入れた介護技術と変化しております。またリフトのように効果的に使用できる機器も増えてきました。そして今ロボットを使用した介護もその選択肢の一つに加わりました。

時代と共により効率的な方法を選択する事は、次世代に繋ぐためにも必要な力であります。今、そして将来も介護を行っていくために、ロボットを使用した介護についても、知識、体験、比較を通して選択できなければならぬのだと改めて感じました。(石川)

「二〇一九年度青嵐荘療護園夏祭り」

青嵐荘療護園

二〇一九年八月十日（土）十六時より、青嵐荘療護園夏祭りが開催されました。今年は例年とは異なり、療護園単独での開催でしたが、利用者・ご家族共に大いに盛り上がったイベントとなりました。

夏祭りの主な内容は、スイカ割り・食事会・お囃子鑑賞・花火でした。スイカ割りでは施設長が見事にスイカを真つ二つに割り、会場を大きく盛り上げてくれました。また、利用者は紙風船をスイカに見立ててスイカ割りを行いました。手や棒で力いっぱい紙風船をたたいており、割れたときには歓声が起こり、利用者には笑顔が見られました。

お囃子では古河ジンカーズ様が来園され、お祭り会場を大いに盛り上げてくださいました。利用者の中には一緒に歌を口ずさんでいる方もいました。

また、花火は小さな打ち上げ花火と噴射型の花火ではありましたが、利用者・ご家族共に楽しんでいる様子でした。花火を鑑賞しているときの利用者の顔は感動しているようにも見え、とても良いイベントになったと感じました。



今年度の夏祭りは、療護園のみでの開催だったこともあり、顔見知りの利用者同士でコミュニケーションをとっている様子やご家族同士でお話している姿などが見られ、とてもアットホームでした。来年度も、一施設開催だからこそその強みを生かした祭りを開催し、利用者・ご家族同士の交流に力を入れたイベントにしていきたいと思います。（菊地）



「老人会との関わりをとおして」

青嵐荘特別養護老人ホーム

七月下旬、近隣にお住いの老人会の皆様を招いて交流会を開催致しました。当日は「養護老人ホーム」や「グループホーム穂の香」のご利用者も含め四十名が参加され、ふれあい囲碁などを行いながら、とても楽しく交流を深める事ができました。

また当施設と老人会の交流については、今年で五年目を迎える事ができました。老人会の皆様には毎回多くの方に参加頂き、大変感謝しております。

ではこの五年間の関わりを振り返ってみると、当初は老人会に来てもらう事ばかり意識しておりました。しかし老人会の定例会や地域の行事などに継続して参加させて頂く中で、地域の皆様への距離が徐々に近づけたのではないかと感じております。言い換えると、今までは施設の中で待つ姿勢だった自分が、地域の中に出て、施設と地域の繋がりをを感じ始めたのかもしれない。

まだまだ地域の力としては未熟ではありますが・・・しかし、この関わりをさらに広めるべく地域の活動に今以上に関わって参りますので、皆様今後ともどうぞ宜しくお願い致します。（石川）



「小規模事業所による地域交流」

グループホーム穂の香

グループホーム穂の香は、地域密着型サービスとして位置付けられており、より良いサービスを提供するには身近な地域力が求められています。その様な中、穂の香においては年六回「運営推進会議」という地域の方へ当事業所並びに当法人取り組みを報告し透明性の確保を図ると共に、地域の方から貴重なご意見を頂きサービス向上へと繋げる会議を実施しています。地域参加者は区長・民生委員・自警団団長（子供会会長兼務も多い）等で主に任期が一年の為、より多くの地域の方のご意見を伺え、これまでに【地元子供会神輿交流】 【認知症サポーター養成講座】 【枝切り・草刈共働作業】へと繋がりました。また今までは事業所から地域に対し、行事（祭りやクリーニング作戦）呼び掛けが主流でありましたが、最近では歴代区長より地域自主防災組織構築を呼び掛けて頂く等、地域主導へと変化が見られています。今後も小規模事業所ならではの強みを活かし地域の輪を広め地域包括ケアシステムにおけるグループホーム穂の香の役割を浸透していきたいと考えています。（渡辺）



「豊かで住みやすい地域を目指して」

青嵐荘つくし園相談支援事業所

当事業所は、五霞町より相談支援事業を受託しています。五霞町には相談支援事業所が一つ所もない状況ですが、社会福祉協議会が中心となり、民生委員等と連携を図り、住民のニーズを発掘し支援を行っています。私達はこのような町民同士の関係が強く、お互いに支え合いながら生活している強みを活かし、民生委員等との連携を強め、私たちの専門性をサポート的に活用出来るようにする事で『地域力』を強くしていきたいと考えています。

そこで、昨年より民生委員・児童委員

協議会に参加させて頂き、相談事業や活用方法について、ご説明しています。そして現在では、民生委員や社会福祉協議会、保健センター等の様々な職種の方からの相談が多くなり、関わりの輪も少しずつ広がってきています。具体的には障害者のひきこもりや仕事・生活面、家族の高齢化等の相談がありました。民生委員等からは、まだ埋もれていたり解決できていないケースがある事や、活動する中で感じる障害児者に対する不安や悩み、困り事も相談していきたいとの意見も聞かれました。

これからもこの相談事業を地域住民と協働していくことで『地域力』の強化の一助となるよう推進していきたいと思っています。（齊藤）



楽しかった雇用障害者研修旅行

六月二十六日 本から二十七日 金の二日間にわたり 法人内雇用障害者としてのホーム入居者などによる合同研修旅行が開催され、付添職員も含めて総勢十七名が参加しました。

今回で六回目となる研修旅行ですが、目的は就労意欲の向上や参加者同士の交流、親睦、また、日頃の業務に対する慰労を図ることです。

旅行の一日目は、福島県郡山市にある社会福祉法人「つと福祉記念会 カフェスイートホット」にて、就労についての具体的なお話を聞いたり、パスタやピザなど昼食を頂きました。

その後、同じ郡山市にある社会福祉法人「にんじん舎」にて、養鶏場の見学や東日本大震災以降の取り組みについてお話を聞きました。職員の方のお話を真剣に聞く姿が印象的でした。

二事業所を見学後、その日は、福島県いわき市にある湯本温泉 松柏館に宿泊し温泉やおいしい夕食、カラオケを楽しみました。また、参加者同士で親睦を深められているようでした。

二日目は、福島県いわき市にある国宝白水阿弥陀堂の参拝やアクアマリンふくしま水族館を楽しみました。昼食は美味しい海の幸を頂き、午後には茨城空港を見学し帰路につきました。

二日間の旅行を通して、様々な刺激を受けたことで、就労意欲の向上が図られていたように感じました。そして、なにより、参加した職員が仕事中心とは違った表情で楽しんでいる様子を見られたことは大きな収穫でした。(齋藤)



雇用障害者研修旅行に参加しました!!

職員紹介と研修旅行の感想

- ①入職時期
- ②業務内容
- ③研修旅行の感想

鈴木生活支援員



- ①平成28年4月
 - ②館内清掃、洗濯
 - ③6月27日から1泊2日で研修旅行に行ってきました。1日目は「カフェスイートホット」に行き、お話を聞きながら美味しい料理を楽しみました。その後、「にんじん舎の会」を訪問し、災害に負けない地域との繋がりと日々の助け合いの大切さを教えて貰いました。
- 2日目は国宝見学と水族館を見学し楽しみました。また、行きたいです。

関口生活支援員



- ①平成26年4月
 - ②館内の清掃、リネン交換、水分介助の補助や食事の配膳など
 - ③今回の研修旅行では、カフェスイートホットの見学をしました。
- そこでは冷凍食品を使わず、全て手作りで料理をお店に出しているそうです。他にもストラップの小物を手作りしていると聞きました。お店や施設の見学をして、こういう活動をしているのかを見たり聞いたりして楽しく勉強することができました。
- 研修旅行に参加させていただきありがとうございました。

田中介助員



- ①平成12年4月
 - ②シリンジ組立、食事準備、リネン交換、衣類整理など
 - ③1日目のカフェスイートホットでは、毎日自家用車で通ったり、ずっと立ちっぱなしの仕事でとても大変なことが分かりました。
- 2日目の国宝白水阿弥陀堂では、初めて行った場所で、私としてはあまり分らなかったです。
- 今年は、1泊2日の旅行で松柏館に泊まりました。部屋では友達と楽しくおしゃべりをして、とても楽しかったです。

給食提供の新たな展望

栄養士の部

昨今の給食業界は人材不足が深刻化し、それを解消すべく完全調理品の開発・導入が加速しています。

そういった状況の中、去る8月1日、給食業務を委託しているフジ産業㈱様より『完全調理済み食材クックパック』のご案内があり、管理者・栄養士を中心に試食等を通し知識を深める機会を頂きました。

クックパックの主な特徴として、真空加圧調理により安全な食事提供が簡単にでき人件費・光熱水費の削減につながる。冷凍品のためストックが非常食になる。専用の献立ソフトにより献立作成から発注まで簡素化できるということでした。

施設の給食提供を行っていくうえで、安全・衛生を土台とした美味しい食事提供はもちろんのこと、課題として安定供給（人材確保と育成）、災害対策があげられます。

委託会社でも人材確保が難しくなっているなか、人が行う業務を簡素化できる様、模索・試行していき、人による業務時間を減らし人材育成の時間につなげること。災害時必要な非常食は保管に電力が不要なものを自施設完結で準備することが必須であると感じています。

世の中が大きく変わっていく中、今後の給食提供に何が必要か。①新しく画期的な商品を使う②新たな機器を使う③現在の業務を削減する。など何か1つに頼るのではなく色々な角度から見ていくことで『ご利用者の満足』につなげていきたいと思います。（白石）



産業医としての役割、現状と今後の健康経営について

産業医の仕事は、衛生委員会への出席と職場巡視、健康管理などが主な仕事です。長時間労働やパワハラ・セクハラなどが原因でうつ病を発症して、会社を長期に休み、自殺にまで追い込まれる人が後を絶ちません。このストレスの多い職場環境の中で、労使の潤滑油的役割を果たすのが産業医の仕事です。

芳香会で健康管理をしていますと、生活習慣病の職員が非常に多い傾向にあります。これを改善するために芳香会としては健康経営に取り組む必要があります。健康経営をするには会社が主体となって、運動ができる環境を作ることが重要と考えています。休みの日にはジムに通い、昼休みにはストレッチやウォーキングなどの運動を奨励することだと考えています。まずは健康担当の責任者を決め、外部から講師を招いて健康セミナーを開くのも良いと思います。健康経営によって職員の健康を保つことは、離職率の低下や医療費削減につながります。健康でストレスが少なく働きやすい職場環境を作ることが、今企業には求められています。芳香会の産業医を通じて、心と体の健康の大切さを再認識した次第です。健康で働ける事は、人生で一番の幸せな事と私は思っています。芳香会の皆さん、心と体の健康を保ち、健康で安全に働きましょう。（谷津）



▼芳香会活動報告

「茨城国体ボランティアに参加して」

茨城県での開催は昭和四十九年以来四十五年ぶりとなります。令和最初の記念すべき大会であり、二〇二〇年に開催される東京オリンピックで活躍する事が期待される選手も身近で見ることが出来るチャンスでもあります。オリンピックとなるとチケットは高額であり、抽選では日本中が関心を寄せましたが、茨城国体は、高等学校野球を除けば無料で見ることが出来るのも魅力の一つになっています。

今回茨城で開催する記念すべき大会において地元古河市で行われる公開競技綱引きのボランティアをしてまいりました。古河市に綱引き大会の誘致が決まり、芳香会としても地域と共に国体を盛り上げたい。地域活性化に貢献したいと綱引き部を始動し、古河市で開催される大会にはこれまですべて参加し、複数回入賞した実績もあります。

当日はお揃いの国体用ポロシャツを着用し、地元の方達、他県からの観戦者の方への国体記念グッズ配布、選手・来場者へのドリンク配布をしながら様々な人と交流があり、「ありがとう。」の言葉をたくさんいただきました。熱戦を終えた選手に「お疲れさまです。」と声をかけると「疲れた。」という声もありましたが皆様に笑顔がこぼれていました。地元開催という大会に参加でき大変貴重な経験をさせていただきました。(知久)

ボランティア当日の様子



芳香会スケジュール

十月	四日	交通安全講習会
十月	十六日	福祉サービス苦情解決第三者委員会
十一月	一日	法人内ヒアリング
十一月	九日	理事会
十一月	十九日	令和元年度第二回移動献血事業(結城)
十一月	二十六日	令和元年度第二回移動献血事業(上大野)
十一月	三十日	評議員会
十二月	十七日	実務研究発表会 於結城市民情報センター
十二月	二十日	資格取得者・永年勤続者 記念授与式
十二月	二十七日	外国人就労者 辞令交付式・Welcome Party

編集後記

先日台湾に行て来ました。内容は高齢者福祉研究所の訪問と、様々な種類の高齢事業所を見学するスタディーツアーでした。特に研究所での意見には、我が国の急激な高齢化に伴う介護保険制度の維持について、かなり興味を持たれている様子が窺えました。(光)

東京二〇二〇オリンピック聖火ランナーに応募致しました。多くの応募の中から選ばれることは難しいとは思いますがこのような機会は今二度とないかもしれません。希望を持って、約二〇〇メートルの走行距離を恥ずかしくなく走れる体作りをしながら結果を待ちたいと思います。(修)

段々と涼しくなり、温かい鍋が恋しい季節になりました。肌寒い日には日本のスーパードも目にする韓国料理「タカマ」なんていかがでしょう。

「タリ」鶏「ハンマリ」一羽という韓国語からも鶏丸(と一羽を煮込んだ鍋料理で、美肌成分も豊富に含まれています。おすすめしたい一品です。(純)



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027 (代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。